

新しい社会福祉の知と実践を求めて 2000年全国大会を終える

大会実行委員会事務局長 秋元 樹

11月3日、4日の両日、日本女子大学西生田キャンパスにおいて、日本社会福祉学会2000年（第48回）全国大会は開催され、成功裡に終えられた。二日間の参加者は1600名弱に上り、コミュニティに一般公開された記念講演（日本女子大学共催）への一般市民の参加を含めるとその数は1900名ほどになる。

21世紀、今の「社会福祉」ではすまない —原理的变化の問いかけ

大会テーマは、「新しい社会福祉の知と実践を求めて」。学会は第45回大会において「戦後50年（を）総括した」。世紀をまたぐ今大会は、20世紀社会福祉が自明なものとして追い求めてきた「人間の尊厳と権利」そのものの確かさを問うた。生命操作を含む科学技術の「進歩」と社会集団・個体間の「多様な権利」の主張がこれを求めている。21世紀の社会福祉はどのような新しい人間像を描き、どのような社会をゴールとして提示できるのか？

3日、シンポジウムの合間に写された21分の映画は、戦後日本社会福祉の原点ともいえるべきものを示すものとして上映された。単なる平和キャンペーン映画と見られた方がおられたら悲しい。映画は広島県土木部の企画、建設省、広島市その他の後援によるものであった。社会規範の軸の移動を見、複数の軸の使用が出来ない者に過去（歴史）と未来を読むことは出来まい。今の軸で21世紀社会福祉は見通せない。

4日の免疫学者多田富雄氏による「生命・個人・社会」と題された記念講演は「生命科学から21世紀を展望」した。先端医療、生命操作、ゲノム解読は人間を物質として私たちの目の前に示しきった。多田氏は、20世紀をすべての物質の本性を最大限利用することによってつくり出された文明とし、ゲノム情報の利用等が人間の限らない欲望のもとにおかれる限り人間の改造、差別が起きるのは間違いないと警告する。問われているのは21世紀の生命観、人間観を何処に求めるのかであり、解く鍵の一つは工学的システムではない生命体の基本的性格たるスーパー・システムという理解の文化現象、社会現象への適用であると説く。一番ヶ瀬康子会員が対話者として聴衆を代表し、議論を社会福祉に引き寄せ、問題点を引き出す。当事者による自己決定権に対し、外部から規制するそれ以上の普遍的な倫理が用意される必要のあること、この世界的な申し合わせが市民参加の下でなされる必要があること、等。



私たち社会福祉は、かつて大事に関わってきたもの、そして今なお必要であるかも知れないいくつかを忘れつつあるかも知れない。また日々新たに生まれつつあるいろいろな問題に目を充分やっていないかも知れない。2099年、社会福祉学は存在し続けているだろうか、2050年、高度専門職といわれるソーシャルワークは今のような形で存在しているのだろうか？

「21世紀の社会福祉：何に、どこまで、関わるのか？」

大会シンポジウムは、現在にあって学問的根拠ある議論が可能な範囲として21世紀のはじめの10年に焦点を当てた。①生命操作を含んだ技術変化・情報化の飛躍的進展、②好機と危機が隣り合わせになった競争社会と自己責任の強調、③不平等の拡大、④世帯共同のいっそうの縮小、⑤グローバルな標準からの影響とローカルな標準づくりの同時的進行、が進む中、社会福祉は、何に、どこまで、関与すべきか、出来るのか？不確実性が増す現代社会におけるセイフティネットの意義を説く橋本俊詔氏（京都大学経済研究所）をゲストに、小林良二会員、中野敏子会員、白澤政和会員がサービス、障害者、ソーシャルワークの立場から、セイフティネットの前提としてのリスクや格差、ニーズの認識、サービス供給の基準やゴールについてのこれまでの社会福祉の論点と課題を提起した。コーディネーター岩田正美会員は、学会たるところ、原理的な問題に戻った議論を続けようと呼びかけで締めくくった。

70件に及ぶポスター発表

自由研究発表は、口頭発表が297件、ポスター発表が70件、計367件（当日キャンセルの9件を含む）であった。特に、ポスター発表は前回の26件から大幅に増えた。口頭発表の分野別の分布は次頁の表の通りで

ある。

圧倒的に、高齢者（52件）、障害児者（学会の用語に従う、以下同じ）（46件）、児童（29件）の発表が多い。この3分野で全体の43パーセントを占める。次いで方法・技術、教育・実習がそれぞれ34件、24件。「伝統的」分野ともいえる司法、労働の発表は各4件と最少分野となっている。

分野別口頭発表件数

高齢者	52件	NPO・ボランティア	11件
障害児者	46	歴史	9
方法・技術	34	公的扶助	9
児童	29	医療	8
教育・実習	24	女性	7
制度・政策	18	産業・労働	4
国際	17	司法	4
地域	13		
理論	12	合計	297

前回の大会で5件を数えた自主企画シンポジウムは、今回は学会理事会主催の「日韓学術交流」を含め11件と倍増した。

以上、大会テーマ、記念講演、大会シンポジウム、自由研究発表、自主企画シンポそれぞれの、またそれらを総合した大会全体の内容的意味での評価は各学会員に任すほかはない。大会を準備した事務局としては、学会及びすべての参加者がこれから何らかの成果を得ていただけたであろうことを願うのみである。

3日昼の総会では、大橋謙策会長挨拶のあと、前年度事業報告及び監査報告、2000年度補正予算、次年度事業計画及び予算が審議可決されるとともに今大会に韓国社会福祉学会会長及び副会長が招待されていることその他が報告された。同日夜に日本女子大学成瀬講堂北ホールで行われた懇親会には浦辺史、吉田久一、重田信一、仲村優一、児島美都子の5名誉会員、韓国社会福祉学会会長を含め二百数十名の会員が参加された。

試みられた数多くの改善

今大会にあってはその準備運営について数多くの改善が試みられた。主な点は以下の通りである。これらについての事務局としての評価は別に学会理事会に報告済みである。

①事前登録者の数を増し、大会運営をより計画的、安定的なものとするため、大会参加費を事前6000円、当日9000円とその差を前年までの2000円から3000円とした。

②大会準備過程における自由研究発表申し込みに関する諸ルール等を、学会研究担当理事名において、事前に全学会員宛に文書で通知し、その徹底を図った。（2000年3月14日付け「大会運営の改善について」）。

③ポスター発表をすすめた。事前のPRのほか、ポスター発表にも分野別グループ分けを導入し、同時に司会者を配置し各セッションの冒頭に各発表者に数分の口頭「プレゼンテーション」（説明）の機会を設けた。

④葉書による発表申し込みのプロセスを省略し、要旨提出をもって発表申し込みとした。

⑤口頭発表の各セッションを8発表から4発表に減じ、かつ各セッションの司会者を2名から1名に減じた。

⑥各発表者から要旨が提出されたあと、分野別の責任者を選任し、各人に形式・内容のチェック、セッション分け、発表順の決定、当日の司会の選任・依頼のすべてを委ねることとした。

⑦メインシンポジウムの報告者、コーディネーターの事前打ち合わせ会を2回にわたって行った。

次年度大会への引継事項二点。一点は、障害その他の特別のニーズ（e.g. 託児サービス）を持つ参加者に対する対応。限られたリソースの中でどこまで誰の負担、責任ですべきか。二点目は、大会当日、5ヵ所の休憩所で消費されたものの量。コーヒー2500グラム、クリームパウダー3500グラム、紅茶・日本茶パック1000個、紙コップ2500個。

最後に、本大会を準備・運営した事務局メンバーを再度ご紹介し、合わせて事務局の名をもって、本2000年大会の成功にご協力下さったすべての日本社会福祉学会会員に心から御礼申し上げます。

さらに、本大会の準備・運営には、開催校の社会福祉学科所属の非学会員教員、約200名の学生及び院生、ならびに事務局局職員の献身的サポートがあったことを申し添えます。

（学会員）田端光美、中谷陽明、谷口政隆、牧野田恵美子、須之内玲子、岩田正美、小山聡子、下夷美幸、川崎愛、西浦功、秋元樹
（非学会員）増野肇、木村愛子、幸津國生、安原みどり、浅井典子、中村圭子

2000年度 総会 報告

2000年度の総会は、2000年11月3日に日本女子大学成瀬講堂で開催された。

総会では、本大会会長、宮本美沙子日本女子大学学長から多数の会員の参加を歓迎し、大会の成功を期待するとの挨拶が述べられた。議事については、議長団に山縣文治会員（大坂市立大学）と牧野田恵美子会員（日本女子大学）を選出し、審議の結果下記事項が承認された。

児島美都子会員の名誉会員推挙の際、大会に出席された浦辺史名誉会員、重田信一名誉会員、仲村優一名誉会員をご紹介した。また、本年度も昨年に引き続き韓国社会福祉学会より会長と副会長を招待した。

最後に次期開催を代表して、川添雅由大会委員長から第49回大会への参加呼びかけがあった。

【総会議案】

第1号議案 1999年度事業報告および監査報告

第2号議案 2000年度補正予算案

第3号議案 2001年度事業計画・予算案

第4号議案 名誉会員の推薦について

報告事項 ①日本学術会議の会員及び第18期社会福祉・社会保障研究連絡委員会の委員について ②日本社会福祉学会・社会福祉学助成振興委員会について ③ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会について ④韓国社会福祉学会会長、副会長の招待について ⑤英文誌の刊行について ⑥会員数の現況 ⑦地方部会報告 ⑧2001年度全国大会開催校について ⑨その他



名誉会員に児島美都子会員を満場一致で承認

2000年度総会において、理事会より児島美都子会員が名誉会員に推挙され、満場一致で承認されました。名誉会員は、日本社会福祉学会規則第9条「(名誉会員) 本会は、本会発展に多大の貢献のあった会員に名誉会員の称号をおくることができる。」(1991年10月19日施行) によるものです。

児島美都子会員は、永年にわたり理事の重責を担われて日本社会福祉学会の発展に貢献されました。

本会の名誉会員は、岡村重夫氏、浦部史氏、嶋田啓一郎氏、吉田久一氏、重田信一氏、小川政亮氏、仲村優一氏、児島美都子氏の8名になりました。



第1号議案 1999年度事業報告

1. 日本社会福祉学会第47回全国大会・総会の開催及び第48回全国大会開催の準備を行った。

1. 日本社会福祉学会47回大会
 - ・開催日 1999年10月9日(土)、10日(日)

- ・会場 川崎医療福祉大学
- ・大会事務局 川崎医療福祉大学
- ・大会テーマ 「岐路に立つ社会福祉理論の動向と課題」

- ・参加者 約1,543人

2. 総会の開催

- ・開催日 1999年10月9日(土)
- ・会場 川崎医療福祉大学体育館

- ・内容 ①1998年度事業報告および監査報告
②1999年度補正予算
③2000年度事業計画および予算
④機関誌編集規定

3. 日本社会福祉学会48回全国大会(開催校日本女子大学)の開催準備をおこなった。

2. 理事会・運営委員会の開催

1. 理事会を4回開催し、会務の審議および359名の会員の入会を承認した。

なお、うち1回は、「日本学術会議会員候補および推薦人の選挙に関する内規」の審議のため文書審議となった。

(日程・7月10日、10月8日・9日・10日、3月5日)

2. 運営委員会を3回開催した。

(日程・6月28日、9月27日、1月10日)

3. 機関誌の発行

1. 機関誌『社会福祉学』40巻-1号

1999年度日本社会福祉学会収支計算書

自1999年4月1日 至2000年3月31日

(1) 収入の部

(単位: 円)

科	目	予 算 額	決 算 額	摘 要
数	項			
1	会費収入	21,520,600	24,163,500	99年度分 22,317,500円 (含新入会員307人分 2,456,000円) 過年度分1,846,000円
2	機関誌売上	500,000	721,830	機関誌『社会福祉学』 130冊X5,000円 他
3	寄付金収入	0	0	
4	補助金収入	0	0	
5	助成金収入	0	0	
6	雑 収 入	2,015,000	2,172,630	
	1 事業費繰入	2,000,000	2,000,000	助成金事業会計(特別会計3)より
	2 預金利子	5,000	4,140	銀行預金利子郵便貯金利子
	3 定期預金	0	0	
	4 そ の 他	10,000	168,490	資料代・出版著作権料等
7	積立金取崩収入	0	0	
8	繰越金収入	5,369,297	5,369,297	
合 計		29,404,897	32,427,257	

(2) 支出の部

(単位: 円)

科	目	予 算 額	決 算 額	摘 要
数	項			
1	事業費	14,040,000	12,541,049	
	1 大会費	2,000,000	2,000,000	川崎医療福祉大学
	2 機関誌刊行費	5,800,000	5,594,348	機関誌『社会福祉学』40巻1号および2号刊行費、郵送費、編集委員会費等
	3 部会還元費	2,150,000	2,382,560	7地方部会
	4 特別委員会費	500,000	231,000	ホームページ委員会、社会福祉研究助成委員委員会
	5 特別事業費	2,000,000	787,500	英文誌刊行費
	6 学会ニュース刊行費	1,350,000	1,243,670	学会ニュース印刷(21号、22号、23号)、郵送費
	7 選挙管理費	0	51,971	日本学術会議会員候補および推薦人選挙、選挙管理委員会費
	8 学術会議費	240,000	250,000	日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会活動協力金
2	事務費	10,800,000	9,606,834	
	1 会 費 費	350,000	255,106	理事会開催費等
	2 理事会運営費	1,300,000	1,134,705	理事旅費・活動費等
	3 消耗品費	350,000	276,643	印刷用紙・事務用品費等
	4 印刷費	800,000	500,760	総会資料・振込用紙・封筒等印刷費等
	5 通 信 費	800,000	916,408	郵便料および宅配料等
	6 人 件 費	4,000,000	3,931,900	事務局職員給与・アルバイト手当等
	7 交 通 費	200,000	80,940	事務局職員・アルバイト出張交通費
	8 事務所費	3,000,000	2,510,372	事務所賃借料・光熱費・電話・書庫・OA機器・コピーリース料等
3	特別会計繰出	2,000,000	3,212,500	名簿作成費積立(特別会計1) 2,000,000円 特別事業(特別会計2) 1,212,500円
4	予 備 費	2,584,897	295,728	国際交流(韓国社会福祉学会との交流)
5	次期繰越金	0	6,771,146	
合 計		29,404,897	32,427,257	



(論文/「論説」5、「研究ノート」10、および地方部会報告)を1999年6月に発行した。

2. 機関誌『社会福祉学』40巻-2号(論文/「論説」2、「研究ノート」11、および社会福祉文献・資料)を2000年2月に発行した。

3. 機関誌『社会福祉学』への投稿論文の決定のために、編集委員会を4回(1999年8月、9月、2000年2月、3月)、査読委員も含めた拡大編集委員会を1回(10月)開催した。

4. 投稿論文の審査のため、74名の査読委員(任期は2000年1月より2002年12月まで)を委嘱した。

5. 機関誌『社会福祉学』掲載の英文抄録の校閲を依頼した。

4. 書籍の刊行

1. 学会記念誌講座Ⅰ『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望』(一番ヶ瀬康子・高島進・高田真治・京極高宣編/ドメス出版/1999年10月発行)の刊行。

2. 『社会福祉の国際比較』(阿部志郎・井岡勉編/有斐閣/2000年3月発行)の刊行。

5. 学会ニュースの発行

学会ニュースを3号発行した。

(21号を5月/22号を9月/23号を2月に発行した)

6. 地方部会活動の支援

地方部会活動の支援をおこなった。

7. 日本学術会議への協力

1. 日本学術会議へ登録をした(1999年5月。第1部/社会学/社会福祉・社会保障研究連絡委員会)。

2. 会員候補者1名、推薦人3名、推薦人予備者1名を届けた(日本社会福祉学会理事・監事を選挙人、日本社会福祉学会会員を被選挙人とした選挙を1999年12月~2000年1月に実施して決定した)。

3. 日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会への活動協力をおこなった。

8. 特別委員会の事業を実施

1. 英文誌刊行委員会

委員会を開催し(10月)、英文論文の募集および刊行の準備をおこなった。

2. ホームページ委員会

ホームページ委員会によりホームページを開設した(1998年5月)。当面の提供情報は、「年次大会」、機関誌『社会福祉学』の「目次」「学会ニュース」「学会入会申込書」とした。また、会員相互の交流の場として掲示板を設けた。

3. 社会福祉研究助成振興委員会

社会学会と連携し、文部省科学研究費申請審査の準備をした。

【特別会計1】

1999年度日本社会福祉学会 運営基金会計 収支計算書

自1999年4月1日 至2000年3月31日

(1) 収入の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	前年度繰越金	629,467	629,467	0	
2	一般会計繰入金	2,000,000	2,000,000	0	
3	利 子	1,000	375	△ 625	銀行利子
合 計		2,630,467	2,629,842	△ 625	

(2) 支出の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	名簿作成費	0	0	0	
2	予 備 費	2,630,467	0	△ 2,630,467	
3	繰 越 金	0	2,629,842	2,629,842	
合 計		2,630,467	2,629,842	△ 625	

【特別会計2】

1999年度日本社会福祉学会 特別事業会計 収支計算書

自1999年4月1日 至2000年3月31日

(1) 収入の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	前年度繰越金	692,129	692,129	0	
2	事業費繰入	0	0	0	
3	特別事業費 独立金繰入	0	0	0	
4	繰 入 金	0	1,212,500		一般会計より繰入れる
5	利 子	100	328	228	銀行利子
6	繰 収 入	0	0	0	
合 計		692,229	1,904,957	1,212,728	

(2) 支出の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	事業費	0	0	0	
2	会 費 費	300,000	0	△ 300,000	
3	予 備 費	392,229	0	△ 392,229	
4	繰 越 金	0	1,904,957	1,904,957	
合 計		692,229	1,904,957	1,212,728	

【特別会計3】

1999年度日本社会福祉学会 助成金事業会計 収支計算書

自1999年4月1日 至2000年3月31日

(1) 収入の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	前年度繰越金	2,101,704	2,101,704	0	
2	助成金収入	0	0	0	
3	利 子	500	893	393	銀行利子
合 計		2,102,204	2,102,597	393	

(2) 支出の部

科 目		予 算 額	決 算 額	比較増減(△)	摘 要
数	項				
1	研 究 費	0	0	0	
2	会 費 費	0	0	0	
3	出 版 費	0	0	0	
4	繰 出 金	2,000,000	2,000,000	0	一般会計へ繰出し、英文誌刊行に当てる
5	予 備 費	102,204	0	△ 102,204	
6	繰 越 金	0	102,597	102,597	
合 計		2,102,204	2,102,597	393	

9. 韓国社会福祉学会との連携

韓国社会福祉学会会長および事務局長を日本社会福祉学会第47回全国大会にご招待し、日本社会福祉学会との情報交換、大会の視察をいただいた。

また、10月下旬韓国社会福祉学会大会へのご招待をいただいたので、本会会長および事務局長が韓国を訪問し、大会の視察と情報交換をした。

10. 会費請求等の業務を実施

1. 会費請求(1回)のほかに、未納の会員には督促した。



日本社会福祉学会 一般会計 貸借対照表

2000年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	8,873,146	1. 流動負債	2,102,000
普通預金	8,802,886	未払金	2,000,000
郵便振替貯金	70,260	前受金	102,000
立替金	0	2. 固定負債	0
2. 固定資産	1,689,143	3. 運用財産	8,460,289
備品	1,174,143	運用財産基金	1,689,143
繰延資産	515,000	繰越金	6,771,146
資産合計	10,562,289	負債合計	10,562,289

【特別会計1】

日本社会福祉学会 運営基金会計 貸借対照表

2000年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	2,629,842	1. 流動負債	0
普通預金	2,629,842	2. 繰越金	2,629,842
資産合計	2,629,842	負債合計	2,629,842

【特別会計2】

日本社会福祉学会 特別事業会計 貸借対照表

2000年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	1,904,957	1. 流動負債	0
普通預金	692,457	2. 繰越金	1,904,957
未収金	1,212,500		
資産合計	1,904,957	負債合計	1,904,957

【特別会計3】

日本社会福祉学会 助成金事業会計 貸借対照表

2000年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	102,597	1. 流動負債	0
普通預金	102,597	2. 繰越金	102,597
資産合計	102,597	負債合計	102,597

日本社会福祉学会 財産目録

2000年3月31日現在

摘 要	金額	金額
内 訳	金額	金額
[資産の部]	円	円
I 流動資産		
1. 預 貯 金		
(1) 普通預金		
通常預金 郵便局	NO33688971	509,698
第一勧業銀行・四谷支店(一般会計)	NO1859336	8,293,188
第一勧業銀行・四谷支店	NO1866235	2,629,842
(特別会計1 学会運営基金会計)		
第一勧業銀行・四谷支店	NO1868254	692,457
(特別会計2 特別事業会計)		
第一勧業銀行・四谷支店	NO1868262	102,597
(特別会計3 助成金事業会計)		
(2) 郵便振替貯金		
東京貯金事務センター (00155-59882)		70,260
(3) 未収金 特別会計2 (一般会計より繰入金)		
流動資産合計	1,212,500	1,212,500
II 固定資産		
1. 繰延資産(コンピューター会員管理システム)		
(コンピューターGATEWAY 一式)		959,960
(警備)		269,640
固定資産合計	459,543	1,689,143
資 産 合 計		15,199,685
[負債の部]		
I 流動負債		
1. 未払金 英文誌刊行費		
(1) 英文誌印刷(株トープ)		787,500
(2) 特別会計2へ繰出し		1,212,500
2. 前受金(2000年度以降会費)		102,000
流動負債合計		2,102,000
負 債 合 計		2,102,000
差引正味財産合計		13,097,685

2. 住所変更・勤務先変更手続きの業務をおこなった。
3. その他情報提供など会員サービスをおこなった。

2000年5月13日

日本社会福祉学会

監 事

中垣昌美

監 事

佐藤 進

11. 事務局体制の整備

1. 日本社会事業学校連盟、日本地域福祉学会と共同で事務所を借り、3団体事務局長会議を1回(2月)開催した。
2. 事務局会議を開催し、必要に応じて関係理事と連絡をとった。

監 査 報 告 書

1. 監査事項

日本社会福祉学会1999年度実施事業並びに会計決算について

2. 結果報告

監査の結果、事業は適正に実施され、また会計決算については、収支計算書、貸借対照表及び財産目録と諸帳簿、証憑書類を対照検査し、正確に処理されていることを認めます。

監査報告と要望事項

2000年5月13日

日本社会福祉学会監事

佐藤 進

中垣 昌美

2000年5月13日に、田端光美庶務担当理事、高橋重宏総務担当理事より事業・会計報告を聴取のうえ、1999年度事業・会計監査をおこないましたが、会員増加ならびに法人化などの学会組織のあり方、2000年の新しい世紀事業、国際関係団体との交流拡充など事業ならびに会計支出などでの苦労があるにもかかわらず、情報化への関わ



りや会員への対応などをふくめて、事務局の努力により会計および会務の執行状況が適正におこなわれていることを認めましたので、別紙のように報告させていただきます。

1998年度に比し、当初予算と決算において事業費、事務費などの面において、支出減がみられたことに注目いたしております。

今後とも、本学会の事業推進が一層効率的にかつ適正におこなわれますように、以下若干の諸点について理事会において検討されますよう要望いたします。

1. 1998年度事業・会計監査の際の要望事項が、1999年度において多く実施に移された努力を評価いたしたく存じます。

2. 1999年度において、会員の加入初年度において入会費を支払わない会員、過年度の会費未納の会員が会員総数3600人中258人存在すること。また、1998年度要望に見る「3年以上の会費未納者について退会的意思確認のうえ退会告知をする」など今般も学会規約8条2項に基づき、会費未納者の事務的处理を支障なきよう促進されるよう努力すること。

3. 会員の増加と会費納入予測の確実さに照らし、また諸活動の予測も可能となることから、補正予算析出のあり方などを検討し、大幅な特別支出事情による補正予算の必要な場合を除いて、予備費で対応できるものと思料し、今後、当初予算と支出決算で可能となり、補正予算は不要ではないか検討されたい。

4. 事務局の会務、会計、事務執行においての努力を評価し、今後学会収支会計のあり方、事務局体制のあり方とも絡め、事務局職員の退職給付制度についての意向が示されたが、その積立制度の創設化は検討されたい。

第2号議案

2000年度 日本社会福祉学会 一般会計 補正予算書(案)

自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部

(単位:円)

科	目	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
款	項			
1	会費収入	24,828,500	22,710,600	2000年度分 23,026,500円 (3655人×0.9×7000円) (新入会員200人分 1,600,000円)
2	機関誌売上	500,000	500,000	機関誌『社会福祉学』 100冊X5,000円 他
3	寄付金収入	0	0	
4	補助金収入	0	0	
5	助成金収入	0	0	
6	雑収入	55,000	15,000	
	1 事業費雑入	0	0	
	2 預金利子	5,000	5,000	銀行預金利子、郵便貯金利子
	3 そ の 他	50,000	10,000	資料代・出版著作権料等
7	繰越金収入	6,771,148	2,564,897	
合 計		31,952,648	25,790,497	

(2) 支出の部

科	目	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
款	項			
1	事業費	12,480,000	12,400,000	
	1 大会費	2,000,000	2,000,000	日本女子大学
	2 機関誌刊行費	6,100,000	6,100,000	機関誌『社会福祉学』41巻1号および2号刊行費、郵送費、編集委員会費等
	3 部会運営費	2,480,000	2,150,000	7地方部会
	4 特別委員会費	250,000	500,000	ホームページ委員会
	5 特別事業費	0	0	
	6 学会ニュース刊行費	1,410,000	1,410,000	学会ニュース印刷(24号、25号、26号)、郵送費
	7 選挙管理費	0	0	
	8 学術会議研究連絡委員会活動協力金	240,000	240,000	日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会活動協力金
2	事務費	14,100,000	10,350,000	
	1 会議費	400,000	400,000	理事会開催費等
	2 理事会運営費	1,700,000	1,500,000	理事旅費・活動費等
	3 渉外折衝費	650,000	0	社会福祉研究助成振興委員会等
	4 消耗品費	350,000	350,000	印刷用紙・事務用品費等
	5 印刷費	800,000	800,000	総会資料・鑑込用紙・封筒等印刷費等
	6 通信費	1,000,000	800,000	郵便料および宅配料等
	7 人件費	4,500,000	4,200,000	事務局職員給与・アルバイト手当等
	8 交通費	200,000	300,000	事務局職員・アルバイト出張交通費
	9 事務所費	4,500,000	2,000,000	事務所賃借料・光熱費・電話・書庫・OA機器・コピーリース料等
3	特別会計繰出金	5,000,000	3,000,000	名簿作成費(特別会計1) 積立2,000,000円 特別事業(特別会計2) 3,000,000円
4	予備費	372,648	40,497	
合 計		31,952,648	25,790,497	

ニュースNo.23号に誤記がありました。お詫び申し上げますと共に下記のように訂正させていただきます。

P8

「2000年度日本社会福祉学会会計予算 (1)収入の部予算額合計額」
[誤] 28,355,394円→

[正] 25,790,497円



【特別会計1】 **2000年度日本社会福祉学会 運営基金会計 補正予算書**
自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	2,629,842	2,630,467	
2 一般会計繰入金	1 一般会計繰入金	2,000,000	2,000,000	
3 利 子	1 利 子	1,000	1,000	
合 計		4,630,842	4,631,467	

(2) 支出の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
1 名簿作成費	1 名簿作成費	0	0	選挙人名簿作成
	2 選挙用紙送料	0	0	選挙用投票用紙送付経費
2 予 備 費	1 予 備 費	4,630,842	4,631,467	2001年度理事選挙
合 計		4,630,842	4,631,467	

【特別会計2】 **2000年度日本社会福祉学会 特別事業会計 補正予算書**
自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	1,904,957	392,229	
2 一般会計繰入金	1 一般会計繰入金	3,000,000	1,000,000	
3 利 子	1 利 子	100	100	
4 雑 収 入	1 雑 収 入	0	0	
合 計		4,905,057	1,392,329	

(2) 支出の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	補正 予算額	当初 予算額	摘 要
1 事業費	1 事業費	0	0	
2 会議費	1 会議費	300,000	300,000	
3 予 備 費	1 予 備 費	4,605,057	1,092,329	第50回記念大会経費
合 計		4,905,057	1,392,329	

【特別会計3】 **2000年度日本社会福祉学会 助成金事業会計 補正予算書**
自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	2000年度 補正 予算額	2000年度 当初 予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	102,597	102,204	
2 利 子	1 利 子	0	0	
合 計		102,597	102,204	

(2) 支出の部

科 目		(単位: 円)		
款	項	2000年度 補正 予算額	2000年度 当初 予算額	摘 要
1 繰 出 金	1 繰 出 金	0	0	
2 予 備 費	1 予 備 費	102,597	102,204	
合 計		102,597	102,204	

第3号議案
2001年度事業計画・予算案

- 日本社会福祉学会第49回大会は沖縄国際大学を中心とした沖縄県で開催し、会員の研究発表の機会の確保と学会の研究水準の向上に資する。日本社会福祉学会第50回記念大会は日本社会事業大学において開催することとし、所要の準備をすすめる。
- 大会における研究水準の向上に努め、研究発表部会の設定、報告時間、質疑・討議等のあり方等大会運営を検討する。
- 学会機関誌『社会福祉学』を年2回発行し、会員による研究発表の機会の拡大に努め、学会全体としての研究レベルの向上に努める。
- 学会ニュースの充実と定期発行に努め、会員への情報の周知徹底を諮る。
- 学会の研究水準を高めるため地方部会への還元金の有効活用を促進し、各ブロックによる自主的研究活動の活性化を支援する。
- 日本学術会議の事業および社会福祉・社会保障研究連絡委員会、登録・学協会に対し、社会福祉研究推進の立場から協力する。
- 日本学術会議登録団体および他の関係学会・団体との協力を深め、国内並びに国際的な視野を踏まえ、社会福祉研究助成振興委員会を活性化させ、社会福祉研究水準の向上に努める。
- 学会の国際的活動取り組みの一環として、当面韓国社会福祉学会と交流をすすめ、相互の学会の情報を提供し、本学会全国大会への招待と、韓国社会福祉学会大会の訪問を実施する。
- ホームページ委員会を運営し、コンピュータによるホームページを開き、学会の活動を掲載して、会員に情報を提供する。掲載の内容については、広報委員会の了解のもとに当面日本語版の「入会のしおり」「機関誌『社会福祉学』もくじ」「学会ニュース」について提供するとともに会員等からの情報提供の場として「掲示板」を設ける。
- 日本社会福祉学会第50回記念大会(2002年)企画準備委員会を運営し、記念大会の準備をすすめる。
- 学会事務の一部委託のあり方について検討する。
- 関係団体との連携を強めつつ、わが国における社会福祉の研究/教育の基盤整備に努める。



2001年度 日本社会福祉学会 一般会計 予算書

自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部

(単位:円)

科 目	款 項	予 算 額	前年度 補正 予算額	摘 要
1 会費収入	1 会費収入	25,986,500	24,626,500	2001年度分 24,286,500円 (3855人×0.9×7000円) (新入会員200人分 1,600,000円)
2 機関誌売上	1 機関誌売上	500,000	500,000	機関誌『社会福祉学』 100冊×5,000円 他
3 寄付金収入	1 寄付金収入	0	0	
4 補助金収入	1 補助金収入	0	0	
5 助成金収入	1 助成金収入	0	0	
6 雑 収 入		55,000	55,000	
	1 事業費雑入	0	0	
	2 預金利子	5,000	5,000	銀行預金利子、郵便貯金利子
	3 そ の 他	50,000	50,000	資料代・出版著作権料等
7 繰越金収入	1 繰越金収入	372,646	6,771,146	繰越金から特別会計に繰出したため減額
合 計		26,814,146	31,952,646	

(2) 支出の部

科 目	款 項	予 算 額	前年度 補正 予算額	摘 要
1 事業費		12,940,000	12,480,000	
	1 大 会 費	2,000,000	2,000,000	沖縄国際大学他
	2 機関誌刊行費	6,300,000	6,100,000	機関誌『社会福祉学』42巻1号および 2号刊行費、郵送費、編集委員会費等
	3 部会還元費	2,550,000	2,480,000	7地方部会
	4 特別委員会費	250,000	250,000	ホームページ委員会
	5 特別事業費	0	0	
	6 学会ニュース刊行費	1,500,000	1,410,000	学会ニュース印刷 (27号、28号、29号)、郵送費等
	7 選挙管理費	100,000	0	
	8 学術会議研究連絡 委員会活動協力会	240,000	240,000	日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会 活動協力会等
2 事務費		12,150,000	14,100,000	
	1 会 議 費	400,000	400,000	理事会開催費等
	2 理事会運営費	1,500,000	1,700,000	理事旅費・活動費等
	3 渉外関係費	700,000	650,000	社会福祉研究助成基金委員会等
	4 消耗品費	350,000	350,000	印刷用紙・事務用品費等
	5 印刷 費	800,000	800,000	総会資料・振込用紙・封筒等印刷費等
	6 通 信 費	1,100,000	1,000,000	郵便料および宅配料等
	7 人 件 費	4,800,000	4,500,000	事務局職員給与・アルバイト手当等
	8 交 通 費	200,000	200,000	事務局職員・アルバイト出張交通費等
	9 事務所費	2,500,000	4,500,000	事務所賃借料・光熱費・電話・コピーリース料等
3 特別会計繰出金	1 特別会計繰出金	1,000,000	5,000,000	名簿作成費 (特別会計1) 積立1,000,000円
4 予 備 費	1 予 備 費	724,146	372,646	
合 計		26,814,146	31,952,646	

【特別会計1】

2001年度日本社会福祉学会 運営基金会計 予算書

自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部

(単位:円)

科 目	款 項	予 算 額	前年度 補正 予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	4,630,842	2,629,842	
2 一般会計繰入金	1 一般会計繰入金	1,000,000	2,000,000	
3 利 子	1 利 子	1,000	1,000	
合 計		5,631,842	4,630,842	

(2) 支出の部

(単位:円)

科 目	款 項	予 算 額	前年度 補正 予算額	摘 要
1 名簿作成費	1 名簿作成費	3,500,000	0	選挙人名簿等作成印刷費
	2 選挙用紙送料	1,900,000	0	選挙用投票用紙送付経費
2 予 備 費	1 予 備 費	231,842	4,630,842	
合 計		5,631,842	4,630,842	

第4号議案

名誉会員の推薦について

名誉会員の推薦について
(3頁に掲載)

報告事項

- (1) 日本学術会議の会員及び社会福祉・
社会保障研連の委員について
日本学術会議会員に大橋謙策会員
が任命された。

第18期・社会福祉・社会保障研究
連絡委員会委員の紹介

(委員)

(氏 名) (主な所属学会)
大橋 謙策 日本学術会議会員・世話
人

岡本 民夫 実践理論学会
日本社会事業学校連盟

田端 光美 日本社会福祉学会
山崎美貴子 福祉教育・ボラ学会

川村佐和子 難病看護学会

古川 孝順 日本社会福祉学会

高橋 重宏 日本社会福祉学会

日本子ども家庭福祉学会

白澤 政和 日本老年社会科学会

在宅ケア学会

牧里 毎治 日本地域福祉学会

(幹事補佐)

中野いく子 日本老年社会科学会

市川 一宏 日本地域福祉学会

中野 敏子 日本社会福祉学会

(研究課題案)

I ソーシャルワークを展開できるシ
ステムづくりと社会福祉教育・研究
の条件整備

II ソーシャルケアサービス従事者の
養成のあり方と条件整備



【特別会計2】

2001年度日本社会福祉学会 特別事業会計 予算書

自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部

科 目		(単位:円)		
款	項	予 算 額	前年度 補正予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	4,905,057	1,904,957	
2 一般会計繰入金	1 一般会計繰入金	0	3,000,000	
3 利 子	1 利 子	2,000	100	
4 雑 収 入	1 雑 収 入	0	0	
合 計		4,907,057	4,905,057	

(2) 支出の部

科 目		(単位:円)		
款	項	2001年度 予 算 額	2000年度 補正予算額	摘 要
1 事業費	1 事業費	0	0	
2 会議費	1 会議費	300,000	300,000	
3 予備費	1 予備費	4,307,057	4,605,057	第50回記念大会経費
合 計		4,607,057	4,905,057	

【特別会計3】

2001年度日本社会福祉学会 助成金事業会計 予算書

自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部

科 目		(単位:円)		
款	項	予 算 額	前年度 補正予算額	摘 要
1 前年度繰越金	1 前年度繰越金	102,597	102,597	
2 助成金収入	1 助成金収入	0	0	
3 利 子	1 利 子	0	0	
合 計		102,597	102,597	

(2) 支出の部

科 目		(単位:円)		
款	項	予 算 額	前年度 補正予算額	摘 要
1 繰出金	1 繰出金	0	0	
2 予備費	1 予備費	102,597	102,597	
合 計		102,597	102,597	

(2) 日本社会福祉学会・社会福祉学研究
助成振興委員会委員について日本社会福祉学会・社会福祉学研究
助成振興委員会委員の紹介

(日本学術会議関係)

「福祉研連」委員等 12名

大橋 謙策 田端 光美

岡本 民夫 山崎美貴子

古川 孝順 川村佐和子

高橋 重宏 牧里 每治

白澤 政和 中野いく子

中野 敏子 市川 一宏

(日本社会事業学校連盟関係) 3名

黒木 保博 里見 賢治

米本 秀仁

(日本社会福祉学会関係) 5名

小田 兼三 高田 真治

岩田 正美 栃本一三郎

松井 二郎

(日本地域福祉学会関係) 1名

上野谷加代子

(日本老年社会学会関係) 1名

冷水 豊

(日本介護福祉学会関係) 1名

山手 茂

(3) ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究
協議会について

(4) 韓国社会福祉学会会長、副会長の招待について

(5) 英文誌の刊行について

(6) 会員数の現況

(7) 地方部会報告

(8) 2001年度全国大会開催校について

	A (2000.10.1現在)	%	B (1999.10.1現在)	%	増 減 (A-B)
会 員 総 数	3,825名	100	3,496名	100	329名
北 海 道 部 会	153名	4.0	138名	4.0	15名
東 北 部 会	239名	6.2	215名	6.1	24名
関 東 部 会	1,426名	37.3	1,292名	37.0	134名
中 部 部 会	463名	12.1	413名	11.8	50名
関 西 部 会	816名	21.3	769名	22.0	47名
中・四 国 部 会	335名	8.8	315名	9.0	20名
九 州 部 会	366名	9.6	327名	9.4	39名
そ の 他 (海外居住者等)	27名	0.7	27名	0.7	0名

●含名誉会員 7名

●1999年10月～2000年9月 新入会員数 349人



2000年度第2回 理事会報告

日 時 2000年11月2日(木)・3日(金)・4日(土)

出席者

・別紙理事

・オブザーバー出席(2日のみ)

第48回大会事務局長 秋元 樹(日本女子大学)

第49回大会委員長 川添雅由(琉球大学)

副委員長 久手堅憲一(琉球大学)

事務局長 保良昌徳(沖縄国際大学)

事務局次長 上地武昭(沖縄大学)

・事務局

小林萬里子

会長挨拶

協議事項

第1号議案 第48回大会(日本女子大学)について

- ・事前申し込み 950人
- ・懇親会 173人
- ・口頭発表 295人
- ・ポスター発表 70人
- ・自主シンポジウム 11
- ・総会では手話通訳および要約筆記のサービスをする。
- ・聴覚障害者の会員から口頭発表の際、質問等を受けるため手話通訳の要望があり、対応する。将来は、点字サービス、保育サービスも考えていかなくてはならない。

第2号議案 第49回大会(沖縄国際大学を中心)・第50回大会(日本社会事業大学)・第51回大会について

- ①沖縄の地域性から、会場が分散すること、後援を依頼すること、および県内学会員で実行委員会方式をとることを了承。
- ②第50回大会は、準備をはじめる。
- ③第51回大会は、関西地域でお願いしたい。

第3号議案 入会審査について

91名の申込者について承認した。(氏名は11頁に掲載)

第4号議案 名誉会員について

児島美都子会員について

本学会の理事を通算20年務められたため「日本社会福祉学会名誉会員に関する規則」により総会で推

2000年度第2回理事会出欠状況

		2～4日
会 長	大 橋 謙 策	○
会長職務代行・関西担当理事	岡 本 民 夫	○
総 務 担当理事	高 橋 重 宏	○
研 究 担当理事	小 田 兼 三	○
渉 外 担当理事	古 川 孝 順	○
機関誌 担当理事	白 澤 政 和	○
庶 務 担当理事	田 端 光 美	○
北海道 担当理事	杉 村 宏	○
東 北 担当理事	佐 藤 嘉 夫	○
関 東 担当理事	山 崎 美貴子	欠
中 部 担当理事	高 島 進	○
中・四国担当理事	鈴 木 勉	○
九 州 担当理事	保田井 進	○
理 事	一番ヶ瀬 康子	○
理 事	右 田 紀久恵	欠
理 事	岡 本 栄 一	欠
理 事	京 極 高 宣	○
理 事	田 代 国次郎	○
理 事	三 浦 文 夫	○
理 事	宮 田 和 明	○
監 事	佐 藤 進	○
監 事	中 垣 昌 美	○

挙する。

第5号議案 21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会の設置について

学会もまもなく創設50周年を迎えるに当たり、学会の組織・運営などのあり方を検討するため、委員会を設置する。約1年程度で報告をまとめる。

第6号議案 大会テーマについて

沖縄大会のテーマは、「アジアの社会福祉と日本」

研究大会のテーマは、次年度への各大会へ継続していくことが重要であり、テーマ、メインシンポジウム、ミニシンポジウムをそれぞれ次の大会のメイン、ミニシンポへと継続していく。

また、「概念」「実践」「比較研究」を毎回テーマ、メイン、ミニシンポに設定していく方法もある。

報告事項

1. 名誉会員の参加状況

浦辺史名誉会員、重田信一名誉会員、仲村優一名誉会員が出席の予定。

2. 日本学術会議の会員および社会福祉・社会保障研究連絡委員会の委員について

①日本学術会議会員に大橋謙策会員が任命された。

また、社会福祉・社会保障研連の委員は、所属学会、年齢、性別を考慮し、選出した。

②文部省科学研究費の審査について、社会福祉とし



- で社会学から独立する状態（社会的に社会福祉が認知され、研究者が増えている）にきているので、日本学術会議の社会福祉・社会保障研連所属の各学会で文部省に要望書を出すよう依頼したい。
3. 日本社会福祉学会社会福祉学研究助成振興委員会について
文部省科学研究助成費の社会福祉分野推進のため委員を選出し委嘱する。
4. 『日本社会福祉学会50年史』の刊行について
古川孝順理事長を中心に年史刊行の準備をする。
5. ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会について
2001年1月に第2回研究協議会を開催する。
6. 事務局体制について
事務局員の病後の流動的対応のため、臨時アルバイトを事務補助にあてる。

新入会員

91名

2000年度第2回理事会承認

愛甲 修子	淑徳大学大学院	田中島 晃子	日本社会事業大学
上之園 佳子	調布学園短期大学	土屋 典子	(財)調布ゆうあい福祉公社
浅沼 太郎	大正大学大学院	戸田 竜也	埼玉大学大学院
阿部 哲美	北海道医療大学	外崎 紅馬	仙台医療福祉専門学校
雨宮 洋子	総合ケアセンター 泰生の里別府	渡真利 源吉	社会福祉法人基督教児童福祉会愛隣園
安藤 まみ	明治学院大学	内藤 玲子	龍谷大学大学院
李 昌喜	ソウル長神大学校	中川 純	北星学園大学
顔 明芳	北海道大学大学院	中嶋 恵美子	横浜市福祉サービス協会
石井 栄子	聖隷福祉事業団明日見らいふ南大沢	中嶋 真人	淑徳大学大学院
石田 光広	稲城市役所	仲田 勝美	日本福祉大学大学院
岩井 義樹	龍谷大学大学院	中野 純子	昭和女子大学
内田 健夫	医療法人 内田医院	中村 俊也	熊本学園大学
江藤 さおり	長崎純心大学大学院	永澤 義弘	立正大学大学院
扇谷 秀樹	ケアネット(特養)やよいほうむ	長山 晃子	東京都立大学大学院
大和田 明見	立正大学大学院	鍋山 祥子	中央大学
小川 孔美	日本女子大学大学院	西澤 利朗	東海大学
押木 泉	新潟青陵女子短期大学	貫 美保	東京福祉大学
葛原 徹	青森県立八甲学園	根岸 毅宏	北星学園大学
加藤 洋子	日本女子大学大学院	野村 豊子	岩手県立大学
角野 祐子	龍谷大学大学院	羽井佐 利彦	国立国際医療センター
金子 勝司	仙台医療福祉専門学校	長谷川 一彦	日本福祉大学大学院
鎌田 真理子	帯広大谷短期大学	林 博昭	明治学院大学
北野 敏紀	南海福祉専門学校	原田 雅司	岡崎女子短期大学
北村 香織	龍谷大学大学院	東野 定律	国立医療・病院管理研究所
城戸 美由紀	久留米大学	日高 正巳	神戸大学
金 ヒョン 辰	淑徳大学大学院	関 浩一	久留米大学大学院
金 文華	日本社会事業大学大学院	平田 佳子	淑徳大学大学院
古波蔵香咲花	沖縄国際大学大学院	福田 明美	第二出雲市民病院
駒井 博志	大阪体育大学短期大学部	藤原 幸子	順正高等看護専門学校
笹尾 雅美	東洋大学大学院	ヘネシー澄子	東京福祉大学
佐藤 完	立正大学大学院	堀越 慶太	群馬県太田市立南小学校
佐藤 真子	久留米大学	本沢 一善	東京福祉大学
三宮 基裕	九州保健福祉大学	前原 穂積	那覇市首里民生委員・児童委員協議会
嶋田 芳男	関東福祉専門学校	正宗 千絵	(医)誠和会 牟田病院
清水 ゆみ子	高山村在宅介護支援センター	松江 克彦	東北福祉大学
下山 陽子	社会福祉法人立正橋福祉会	溝渕 淳	龍谷大学大学院
白男川 尚	駒澤大学大学院	宮本 節子	日本社会事業学校
新前 幸子	東京都社会福祉協議会	明星 智美	久留米大学
須江 國雄	佐野国際情報短期大学	森口 弘美	同志社大学大学院
鈴木 善鳳	淑徳大学大学院	森田 亜由美	長崎純心大学大学院
藤田 博仁	愛知県立大学	柳沢 志津子	日本女子大学大学院
鈴木 陽子	東京大学社会科学研究所	柳田 正明	日本社会事業大学
隅田 好美	大阪府立大学大学院	矢野 明宏	城西国際大学
関 徳子	立正大学大学院	矢原 絵理	長崎純心大学大学院
染谷 泰代	お茶の水女子大学大学院	山口 孝夫	大阪府立大学大学院
高田 玲子	埼玉県立大学		

委員会からの中間報告

「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」からの報告

委員会委員長 白澤 政和

1. 趣 旨

日本社会福祉学会は、成立後半世紀近くが経過し、今日では会員数4,000人弱を擁する大きな組織となっている。これまでの時代状況に応じて、さまざまな変革を行ってきたが、21世紀を目前に控え、学会の活性化や研究レベルの向上を図るため、改めて抜本的かつ総合的な検討が求められている。このような状況にかんがみ、「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」が理事会の了承を得て、日本社会福祉学会のなかに設置された。

2. 検討事項

本委員会では、以下のような内容についての検討を予定している。

1. 学会運営について

- ・学会誌のあり方
- ・全国大会のあり方
- ・地方部会のあり方
- ・現場や関係専門団体との関係のあり方
- ・社会的貢献

2. 学会組織について

- ・法人化
- ・理事会運営
- ・会員資格
- ・事務局体制
- ・役員選出
- ・他団体との関係

3. スケジュール

来年度の日本社会福祉学会総会に報告できるよう、目下審議中である。

4. 意見募集

日本社会福祉学会の組織・運営についてのあり方に関して、会員のみならず皆様からのご意見を募集します。ご意見のある方は、学会事務局まで、メール、ファックス、文書等で連絡ください。委員会の資料とさせていただきます。なお、検討事項の論点については日本社会福祉学会のホームページ (<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsnw/>) を参照して下さい。

5. 委員会メンバー

- 委員長：白澤 政和（大阪市立大学）
委員：岩田 正美（日本女子大学）
黒木 保博（同志社大学）
高橋 重宏（日本社会事業大学）
中野いく子（国際医療福祉大学）
松井 二郎（北星学園大学）
山縣 文治（大阪市立大学）

地方部会報告

中部部会

担当理事 高島 進

私は1995年に理事当選以来、今年で2期務めさせていただいた。理事会内の役割は中部部会担当と英文誌刊行委員会に研究担当理事を補佐する立場での参加である。

中部部会は宮田理事をはじめ部会幹事会の皆様のご援助を得て、春秋年2回の例会を成功裏に開催することができた。年々参加者数は増加してきている。県別の会員の偏りが大きく、名古屋で開いてきたので、遠方の県からの参加者には半額の交通費の補助を行う措置を取り、一定の役割を果たして来た。会員が全般的に増加してきているので、3年に1度は愛知を離れて開催する試みとし、来年度の春例会は静岡県立短大を会場に準備している。

英文誌刊行委員会はご存知のように、この間に2号刊行した。論文執筆を含め、それに何がしかの貢献ができたと思っている。

その他では、つい常任理事におまかせで、やや消極的であったのではないかと反省する。理事会では現在、会員数が増加のなかで、大会の報告水準維持について、特別委員会が組織され検討が進んでいる。それと並んで、開催校をお願いできるところが限定されてきているので、共通論題設定には開催校のご意向を尊重し、むしろお任せするようになってきているように思われることである。開催校のご努力は高く評価するが、理事会として学問的に重要な課題を論議し、反映させることが弱くなっているきらいはないか。次期にご検討を。

九州部会

担当理事 保田井 進

九州部会は、2000年12月2日、筑紫女学園大学で、九州部会第41回（2000年度）大会が、同大学人間福祉学科の立石史人学科長、戸丸敦子教授はじめ、教員学生たちの行きとどいた事前準備と当日の大会運営によって行われた。

大会テーマ「社会福祉基礎構造改革は社会福祉の責務を果たせるか」、午前中は自由研究発表に当て、13の発表が3分科会場に分かれて実施された。昼食時は参加者相互の交流の時間とし、個人発表内容や研究、近況についての情報交換、久しぶりに会う会員相互が安否を問いあうなど和やかな一時であった。午後は、総会、基調講演「福祉社会の形成とそれを支える主体



の形成」(保田井進)に続いて、シンポジウム「社会福祉基礎構造改革と利用者の権利保障」を行った。コーディネーター宮崎昭夫氏を中心に、シンポジスト田畑洋一、富永兆子、渡辺良司、窪田次男の各氏により、研究者の立場からの問題提起、実践現場や住民運動の立場から現状報告と権利保障の実践的課題が述べられ、会場からの発言もあって熱のこもった討議が展開された。

会場になった大学は菅原道真にゆかりの太宰府にあり、折しも快晴に恵まれた錦秋の時節、交流会場には太宰府天満宮前市の名物「梅が枝餅」も紅葉の木の葉に添えて供应されて、目にも味覚にも楽しい筑紫女学園大学の皆さんのもてなしであった。

ら研究活動(研究発表会、シンポジウム等)をスタートさせる予定であります。

まずは、ご賛同、ご参加いただける方々で設立準備会を開催したく、ここにご案内申し上げます。 敬具

2000年11月

<記>

日時：2000年12月24日(日)13時30分～3時30分

会場：岡山県生涯学習センター

【設立準備事務局】

〒719-1197 岡山県総社市窪木111

岡山県立大学短期大学部 井村研究室

TEL・FAX 0866-94-2029

中国四国部会

担当理事 田代 国次郎

中国四国社会福祉史研究会の結成

本理事会でも、当初より地域の社会福祉史研究の重要性について議論があった。そのことも踏まえて、予てより準備を進めてきた中四国地方等の会員を中心とした中国四国社会福祉史研究会を、去る2000年12月24日(日)結成しました。

研究会は、代表世話人を、本学会理事の田代国次郎とし、事務局を岡山県立大学短期大学部の井村研究室と決定した。これからの研究活動のスケジュールとして、会報を年1～2回発行、研究誌の発刊、年1回の研究発表会、シンポジウム等の開催などを実施する。会費は年間2,000円である。研究会への参加は、かならずしも中四国部会の会員に限定はせず、希望者は事務局まで申しこんでほしい。

【中国四国社会福祉史研究会(仮称)設立のご案内】

謹啓 皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

中国四国地区の社会福祉史を研究することを目的に、ここに「中国四国社会福祉史研究会(仮称)」を設立したいと考えております。

中国四国地区においては、その地方独自の社会福祉史を研究されている優れた研究者がおられます。また、その研究成果は高く評価されています。こうした研究者の方々の研究手法を集結し、中国四国地区のこれまでの歴史を整理分析し、この地域特有の社会と風土、文化等から生まれた社会福祉史を発掘、研究することも必要と考えます。また、研究者の方々の共同研究の場として、情報連絡機関として、「中国四国社会福祉史研究会」という存在は重要となると存じます。

日本社会福祉学会理事、田代国次郎先生(立正大学大学院教授：倉敷市在住)の賛同もあり、2001年度か

東 北 部 会

担当理事 佐藤 嘉夫

東北部会の活性化の方法の一つとして、各県に幹事1名を置いて、地域ごとの研究活動状況の把握や情報交換を促進していくことにしました。昨年末に部会還元金が交付されて以来、幹事の送出、依頼をすすめて参りましたが、ようやく山形を除く5名の方々に決まりました。7月25日に第1回幹事会を開催し、部会の活性化について様々な角度から討議し、2000年度活動方針を決めました。

この間、前部会担当理事の渡辺剛士、東北ソーシャルワーカー協会会長の太坂稔治の両先生には、貴重なアドバイスとご指導をいただきました。

2000年度活動方針

1. 学会員の研究活動の推進と支援

県別、地域別に学会員の研究活動や所属する研究会等について、その実態を把握し、部会として財政的支援を行うなどして研究活動の活性化を推進する。

2. 部会としての特色のある研究活動の推進

当面は、東北の地域特性に根ざした研究を発掘、促進し、将来的には『東北の福祉』のような形のあるものにしていく。

3. 学際的研究活動の推進

多様化する社会福祉の課題に応えるためには、福祉研究が学問分野や研究方法の違いを超えた学際的なものであることが求められている。さしあたり、社会政策学、社会学、農村(生活)学、建築・都市計画など様々な分野の学会、研究会等との合同の研究企画を、東北の内でも模索していく。

4. 実践＝「現場」との連携

従来から行ってきたソーシャルワーカー協会との合同セミナーなどの他、社会福祉士会、介護福祉士会など、現場の専門的・職能的団体との連携のもとに、共同的研究活動をすすめていく。*セミナー、講演会などの他に、共同的研究企画に基づく調査や実践的研究

5. 会員アンケートの実施

事務局 短 信

他学会の2001年度全国大会の予定

- ▲日本介護福祉学会：第9回日本介護福祉学会大会
・2001年 9月15日（土）～16日（日）
・日本社会事業大学
- ▲社会事業史学会：社会事業史学会第三回大会
・2001年 5月12日（土）～13日（日）
・淑徳大学
- ▲日本職業リハビリテーション学会：日本職業リハビリテーション学会第29回大会
・2001年 7月 6日（金）～7日（土）
・埼玉県立大学
- ▲日本児童学会：日本児童学会総会
・2001年 7月ごろ ・未定
- ▲日本生活学会：日本生活学会
・2001年11月17日（土）～19日（日）
・大手前女子大学
- ▲日本社会福祉実践理論学会：日本社会福祉実践理論学会第18回大会
・2001年 6月29日（金）～ 7月 1日（日）
・弘前学院大学

- ▲日本地域福祉学会：日本地域福祉学会第15回大会
・2001年 6月 9日（土）～10日（日）
・九州保健福祉大学
- ▲日本難病看護学会：第6回日本難病看護学会学術集会
・2001年 8月24日（金）～25日（土）
・前橋テルサ
- ▲日本年金学会：第21回日本年金学会総会・研究発表
・2001年11月 8日（木）～ 9日（金） 予定
・生命保険協会
- ▲日本保健医療社会学会：第27回日本保健医療社会学会大会
・2001年 5月19日（土）～20日（日）
・東京大学安田講堂
- ▲日本老年社会学会：日本老年社会学会第43回大会
・2001年 6月13日（水）～15日（金）
・大阪国際会議場
- ▲日本社会事業学校連盟：第31回社会福祉教育セミナー
・2001年10月 7日（日）～10日（月）
・日本福祉大学

『Japanese Journal of Social Services No.2』の紹介

日本社会福祉学会発行英文誌（JJSS）No.2概要
2000年5月刊行/論文数19編/B5判/200頁
定価1,000円＋送料

JJSS No.1定価1,000円＋送料

お申し込みは学会事務局まで（JJSS No.1も在庫あります）。ハガキ、FAX、Eメールにてお願いします。折返し、本と振込用紙を送ります。

事務局連絡

◎3月は学会会計も年度末です。会費未納入の方は早目に納入してください。とくに新入会員の方は入会費ともにお忘れなく。未納が続きますと、『社会福祉学』『学会ニュース』等の情報提供ができない場合があります。

◎次回の理事会は3月3日（土）です。入会ご希望の方は2月26日までにお申込みください。秋の大会で発表を予定されている方は3月まで（実質理事会まで）に会員になっていなくてはなりません。

◎学会ニュース25号6頁に誤字があり、ご迷惑をおかけしました。

「筑紫女学園大学」が正しいものです。おわびを申し上げます。

学会ニュース 編集後記

21世紀の暦をめくってからもう春分、この季節は会員各位もとりわけ繁忙にお過ごしと思います。

ニュース26号は例年どおり大会報告、理事報告にページをとりましたが、総会で承認された略称「学会のあり方委員会」が精力的に検討を始めている報告が加わりました。次号にはその内容も中間的にご報告できる予定です。学術会議社会福祉・社会保障研連の2000年度活動を次回にご報告します。

今年もよろしくお願い申し上げます。

事務局担当・高橋、古川、田端、小林、村上

（田端光美記）

* 発行人 大橋 謙策 学会ニュース26号
* 編集人 高橋 重宏
発行日 2001年2月5日
発行 日本社会福祉学会
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8
森山ビル西館501
TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204
Email jssw@ma3.justnet.ne.jp
URL http://www.soc.nacsis.ac.jp/jssw/
（印刷／原孔版）
*